

平成22年5月1日現在

研究種目： 基盤研究（B）  
 研究期間： 2007～2009  
 課題番号： 19530868  
 研究課題名（和文） 特別支援教育コーディネーターの養成プログラムの開発に関する研究  
 研究課題名（英文） Research on development of training program for special needs education coordinator  
 研究代表者  
 柘植 雅義（TSUGE MASAYOSHI）  
 兵庫教育大学・大学院・学校教育研究科・教授  
 研究者番号： 20271497

## 研究成果の概要（和文）：

本学大学院修士課程の特別支援教育コーディネーターコースのプログラムで学んだ現職派遣の大学院生（20名ほど）をフォローアップし、本学大学院のプログラムの有効性を確認すると共に、課題も明確にした。一方、韓国、米国、英国の3か国における、特別支援教育コーディネーターに係る業務の現状と課題に関する調査を行い、本学大学院の養成プログラムの検討の資料とした。以上の2つの作業から、新たな授業科目を開設したり、廃止したりするなど、本学大学院のプログラムの一部を改善した。そして、本学大学院のプログラムで学んだ大学院生の修士論文を、本学の研究ジャーナルである「特別支援教育コーディネーター研究」で公表するなど、種々の機会に、本研究の成果を公表した。

## 研究成果の概要（英文）：

The postgraduate of the incumbent dispatch learnt by programming the special support education coordinator course of this knowledge graduate school master's course (About 20 people) was followed up, the effectiveness of the program of this knowledge graduate school confirmed, and the problem was clarified. On the other hand, it investigated concerning current situations and issues of the business that lay a special support education coordinator in three countries of South Korea, the United States, and Britain, and it was assumed the material of the examination of the training program of this knowledge graduate school. A part of the program of this knowledge graduate school has been improved as a new subject is established, and abolished from the above-mentioned two work. And, the result of the present study was made public at various as the master's thesis of the postgraduate who learnt by the program of this knowledge graduate school was made public by "Special support education coordinator research" that was the research journal of this learning chances.

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
19年度	2,200,000	660,000	2,860,000
20年度	1,100,000	330,000	1,430,000
21年度	400,000	120,000	520,000
総計	3,700,000	1,110,000	4,810,000

研究分野： 社会科学

科研費の分科・細目： 教育学・特別支援教育

キーワード： 特別支援教育コーディネーター 教員養成 養成プログラム 評価システム  
特別支援教育 ネットワーキング

## 1. 研究開始当初の背景

発達障害者支援法が平成17年4月から施行され、LD（学習障害）・ADHD（注意欠陥／多動性障害）・高機能自閉症等を含む障害のある児童生徒等に対する特別支援教育が本格化してきた。その際に、幼・小・中・高等学校における特別支援教育推進のキーパーソンである「特別支援教育コーディネーター」の養成が全国の教育委員会で始まった。しかし、そのような各学校の一般コーディネーターと共に、地域の中核となるような高度な特別支援教育コーディネーターの養成が欠かせないとの声が自治体から出始めたが、それに応える養成プログラムの開発は行われていない。

本学大学院では、開学以来、障害のある子どもの教育（特殊教育）について、教育学、心理学、医学、情報学（工学）など関連する様々な分野の教員を幅広く確保し、特殊教育に携わる現職教員の大学院修士課程レベルの教育を行ってきており、本学大学院の修了生は、全国各地の学校、教育委員会、教育センターなどで地域の中核となって活躍している。

このような中、文部科学省や全国の都道府県が推進する「これまでの特殊教育体制から新たな特別支援教育への大きな転換」に沿う形で、本学大学院では、平成18年度からこれまでの「障害児教育専攻」を「特別支援教育専攻」に名称変更し、さらに平成18年度からは「特別支援教育学専攻」と名称変更し、

「心身障害コース」と「特別支援教育コーディネーターコース」の2コース制としたところである。

このように本学では、積極的な改革をタイムリーに進めてきた実績から、先進的な教育研究を進めることで、全国の関係大学に取組実績のモデルを提示するとともに、地方自治体を様々な視点から支援する全国拠点化を進めることができる。

国や地方自治体の特別支援教育への転換に向けた取り組みを始め、平成15年度から19年度までの5年間で、国内の全小・中学校（幼稚園・高等学校も）および盲・聾・養護学校において、「特別支援教育コーディネーター」を指名し必要な養成が始まっている。この背景には、平成17年4月に発達障害者支援法が施行されたことの影響が大きい。

しかし、地方自治体としては、教育事務所や市町村レベルで、地域にあった主体的な取り組みが期待される。したがって、上記のような一般的なコーディネーターと並行して、より専門性の高い高度なコーディネーター（以下「スーパーコーディネーター」と呼ぶ）の養成が次の課題として急務となっている。

自治体での取り組みも始まっているが、養成プログラムとしてある程度まで完成されたという段階には至っていない。また、いくつかの大学における大学院レベルでの養成も始まったところであるが、まだまだ模索の段階である。

これらのことから、「スーパーコーディネ

ーター」の養成に関するモデルを提示するのが本研究の大きな目的である。

その際には、この分野で先進的な取り組みの実績があるアメリカ、イギリスなどの状況について調査をすることも必要であろう。

## 2. 研究の目的

これまでの本学大学院の教育研究の実績を基に、スーパー特別支援教育コーディネーターの養成に焦点を当て、①養成プログラム開発・有効性の検証および改善とコーディネーター養成に係る全国的拠点形成、②研究成果の公表、研究実践の継続化、連携・波及を柱に進めるものである。

以上のことから、今後、我が国の特別支援教育の推進のキーパーソンとして期待される特別支援教育コーディネーターの養成の在り方に関する研究を進め、養成プログラムのモデル案を開発して、他の大学や教育委員会へ発信することを目的とする。

## 3. 研究の方法

### 兵庫教育大学大学院式養成プログラムの開発の経過と現状

平成18年度からスタートした「特別支援教育コーディネーターコース」は、文部科学省や都道府県が進める特別支援教育への転換に直結するものである。現職教員を対象とする本コースでは、校内の特別支援教育コーディネーターとしての活躍にとどまらず、地域のコーディネーターのリーダー的役割を果たせるよう、「連携」と「個別支援」を柱とし、OJT(On the Job Training)を重視した学校における実習や、担任教師への軽度発達障害(LD・ADHD・高機能自閉症等)等に関するコンサルテーションの在り方等カリキュラムの工夫をしており、これをベースにより最適な養成プログラムの開発を進

める。

### 本プログラム修了生のフォローアップ

養成プログラムは、開発・実践・改善のいわゆるPDCAサイクルを進める。その際には、大学近隣の自治体(兵庫県川西市、猪名川町)と大学との間で連携協約を結び、地域に貢献できる人材の養成を進める。また、本プログラムの検証に当たっては、大学院生も実証的検証の役割を担うようにする。さらに、卒業生が学校現場に戻った以降の追跡を行い、卒後の活躍をフォローすることでより実際的な検証が可能となる。

### 兵庫教育大学大学院式養成プログラムの開発・実践・改善(PDCAサイクル)

本研究の取組の有効性を以下のように検証する。

- ・他の教員養成系大学院による養成プログラムの開発に示唆を与えることが可能

- ・地方自治体の教育委員会や教育センターが開発する養成プログラムの開発に示唆を示すことが可能

- ・PDCAサイクルで養成研修を行うということの周知を進めることが可能

- ・毎年年度末に行う養成プログラムの検証作業に学生も参画する。これにより、学生にとっては、完成されたプログラムの下で学ぶ、というのではなく、日本初のようによい養成プログラムの作成・改善に自らも参画する(参画した)という意識を持たせられることは貴重である。そして、将来、各学校や各地域でリーダー的な役割を担ったり、教育委員会等で研修プログラム開発を担当するであろう人材の養成にもつながるものである。

- ・有効性の検証では、本養成プログラムを受けた大学院生に、自らも参加する検証観察に参加させ、その後、学校現場に戻った際、どのような活躍をしたかについてもフォローする。このことにより、より実証性のある

養成プログラムかどうかの検証が可能となるものである。

・大学院修了生参加型での検証を行うことで、終了後の自己の活動を振り返り検証する機会となる。具体的には、学校現場での取り組み状況を把握する仕組み（評価システム）を作成し、それに基づいて評価を実施する。

#### 諸外国における養成プログラムの調査研究

諸外国におけるコーディネーターの養成プログラムを調査し、日本におけるプログラムの在り方を検討する。アメリカ、イギリス、韓国を調査対象とする。アメリカとイギリスについては、養成プログラムの現状と課題を調査し、韓国については、コーディネーターとしての任務を教員が担うことの必要性や養成の在り方に関するニーズを調査する。

## 4. 研究成果

### ①養成プログラムの特色の明確化

まずは、本学のこれまでの養成プログラムの現状と課題を明らかにした。それを基に、本養成プログラムの特徴の一つである、本研究の協力自治体である兵庫県川西市と猪名川町の各学校との連携（ネットワーク）の構築を進めた。その際には、遠隔地会議のシステム構築を学内の情報室に設置し、試行を始めた。さらに、新たな養成プログラムに期待される効果などについて、整理した。

### ②兵庫教育大学大学院式養成プログラムを改善するための評価システムの構築

本学大学院の養成プログラムを受けて修了し、学校現場で活躍している者を対象に、養成プログラムの有効性を評価するための評価システムの開発を試み、試案を作成した。評価システムの試案は、（１）担当者や学校の基礎情報の収集、（２）特別支援教育コーディネーターに関する質問紙、（３）コーディネーターとしての活躍の状況、及び（４）

養成プログラムの貢献の状況、の４点から構成されている。

### ③海外における養成プログラムの調査

諸外国については、特別支援教育コーディネーターの役割や活動の実際と、コーディネーターの養成プログラムや養成のシステムについて調査した。調査先は、アメリカ、イギリス、韓国であった。担当者へのインタビューによる資料と共に、現地において収集したガイドライン等の関係資料から、各国の養成に向けた取組の現状、特徴、課題を明らかにした。

### ④大学院修了生のフォローアップ

本学大学院の特別支援教育コーディネーターコースを修了し、全国の小学校及び特別支援学校に特別支援教育コーディネーター等として復帰したフォローアップ対象者 11 名に対して、本評価システムによるフォローアップ調査を実施した。方法は、本人及び管理職への質問紙調査と、勤務校への訪問調査（授業見学とインタビューなど）であった。特に、特別支援教育コーディネーターとして活躍している者については、コーディネーターの実施状況を把握するための質問紙も行った。

平成 20 年度は、11 名毎の個別分析と全体的な分析を行った。その結果、大学院修士課程での学習のどのような内容（授業など）が職場に生かされているか、どのような内容（授業など）がさらに充実していれば良かったか、などについて、明らかにすることができた。これらを通して、本学大学院のカリキュラム等の有効性と課題を検討することに繋がった。なお、コーディネーターに指名された活躍している者はおよそ半数であった。

平成21年度は、10名毎の個別分析と全体的な分析を行った。その結果、大学院修士課程での学習のどのような内容（授業など）が職場に生かされているか、どのような内容（授業など）がさらに充実していれば良かったか、などについて、明らかにすることができた。これらを通して、本学大学院のカリキュラム等の有効性と課題を検討することに繋がった。なお、コーディネーターに指名された活躍している者はおよそ半数であった。

#### ⑤ 2年間のフォローアップ調査の結果のとりまとめと報告書の作成

3年間の成果をまとめて冊子にした。冊子は、評価システムの開発、昨年度及び本年度のフォローアップ調査の結果、全体的な分析について、まとめることができた。また、1年次に実施した、韓国、米国、英国における実地調査の報告も掲載した。

### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計12件）

- ① 柘植雅義・河場哲史・赤松博子・尾崎朱・田中裕一・太田聡子・高田善彦・米澤公子・鳴海正也・雑賀美恵子（2010）小学校通常学級の授業研究会に特別支援教育の視点を如何に盛り込むか－兵庫県A小学校での授業コンサルテーションの試み－。兵庫教育大学研究紀要, 36, 39-51.
- ② 柘植雅義（2010）特別支援教育部門：特別支援教育に関する教育心理学研究の動向と展望－発達障害関係の研究を中心に－。教育心理学年報, 第49集（2009年度）。日本教育心理学会。
- ③ 柘植雅義（2009）思春期・青年期の発達障害をめぐる教育の現状と課題。臨床発達心理実践研究, 4, 14-20.
- ④ 柘植雅義（2008）特別支援教育に期待すること－教育の立場から－。特集：特別支援教育を巡る学校教育の現状と課題。自閉症スペクトラム研究, 7, 31-37.
- ⑤ 柘植雅義（2008）発達障害に対する教育と行政の連携。小児臨床（特集：最近注目されている発達障害）, 61, 12, 321-324.
- ⑥ 柘植雅義（2008）発達障害のための早期からの総合支援システム－発達支援スターシステム0－8－。国立特別支援教育総合研究所, 発達障害のある子どもの早期からの総合的支援システムに関する研究, 研究報告書「発達障害支援グランドデザインの提案」。
- ⑦ 柘植雅義（2009）特別支援教育の推進と教師・専門職の連携。特集：学校へ行こう！－その場で生かせるOTの視点。作業療法ジャーナル, 43, 11, 1184-1188。三輪書店。
- ⑧ 今津恵・宇野宏幸（2009.3）リーダーシップタイプを考慮した担任コンサルテーション－通常の学級の学級経営と高機能広汎性発達障害児の認知特性をふまえて－。LD研究, 18(1) :52-65.
- ⑨ 宇野宏幸・中井富貴子（2009.2）小学校通常学級担任向け 子どもの行動チェックリスト作成の試み－学校場面における発達障害児の行動特徴に関する定量的分析－。兵庫教育大学研究紀要, 34:49-55.
- ⑩ 眞野祥子・堀内史枝・宇野宏幸（2009.1）注意欠陥/多動性障害児の行動特徴と母親から子どもへの情動表出について。小児保健研究, 68(1) :28-38.
- ⑪ 宮崎光明・酒井美江・加藤永歳・宇野宏幸（2008.3）高機能広汎性発達障害児に

おける文脈を考慮した感情理解の指導、  
LD 研究、17 (1) : 51-61.

- ⑫ 眞野祥子・宇野宏幸 (2007.7) 注意欠陥  
多動性障害児の母親における育児スト  
レスと抑うつとの関連、小児保健研 究、66  
(4) : 524-530.

[図書] (計7件)

- ① 柘植雅義・渡部匡隆・二宮信一・納富恵  
子／編著 (2010) 「はじめての特別支援  
教育 -教職を目指す大学生のために-」  
有斐閣アルマ. 有斐閣. 288
- ② 柘植雅義編著 (2009) 小・中学校 特別  
支援教育コーディネーターのための実  
践・新学習指導要領. 教育開発研究所.  
209
- ③ 柘植雅義 監修、静岡県養護教育研究会  
(2009) 養護教育実践事例集 1 1 : 特別支  
援教育における養護教諭の役割. 静岡教  
育出版社. 139
- ④ 柘植雅義 (2009) 特別支援教育の法規と  
学習指導要領. 宮本信也・石塚謙二・西  
牧謙吾・柘植雅義・青木健監修、土橋圭  
子・今野正良・廣瀬由美子・渡邊慶一郎  
編集、特別支援教育の基礎 -確かな支援  
のできる教師・保育士になるために-. 東  
京書籍. 383
- ⑤ 柘植雅義 (2008) 特別支援教育、特別支  
援教育コーディネーター、専門家チーム  
と巡回相談、広域 (地域) 特別支援連携  
協議会 (担当用語). 日本発達障害学会監  
修, 発達障害基本用語事典, 金子書房.  
275
- ⑥ 宇野宏幸・小島道生・井澤信三 (編著)  
(2010.1) 発達障害研究から考える通常  
学級の授業づくり-心理学、脳科学の視点  
による新しい教育実践、金子書房. 164
- ⑦ 小島道生・宇野宏幸・井澤信三 (編著)

(2008.2) 発達障害の子がいるクラスの  
授業・学級経営の工夫-私はこうした！  
こう考える！子どもの「やる気」と「自  
信」へつなげるコツ-、明治図書. 144

[その他]

ホームページ等

兵庫教育大学大学院特別支援教育コーデ  
ィネーターコースのHPで関係事項を紹介し  
ている

<http://www.hyogo-u.ac.jp/ssecc/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

柘植 雅義 (TSUGE MASAYOSHI)

兵庫教育大学・大学院学校教育研究科・教  
授

研究者番号 : 20271497

### (2) 研究分担者

宇野 宏幸 (UNO HIROYUKI)

兵庫教育大学・大学院学校教育研究科・教  
授

研究者番号 : 20211774

### (3) 連携研究者

石橋 由紀子 (ISHIBASHI YUKIKO)

兵庫教育大学・大学院学校教育研究科・講  
師

研究者番号 : 60403309